

2015年7月20日から22日パシフィコ横浜で
ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会がおこなわれました。



第11回
ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会
The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015

2015年7月20日(月)～22日(水) パシフィコ横浜



International
Confederation
of Midwives

Strengthening Midwifery Globally

English

- TOPページ
- 主催ご挨拶
- ICMアジア太平洋地域
代表ご挨拶
- 応援メッセージ
+ アーカイブ
- 開催概要
- プログラム
- 参加者の皆様へ
- 座長・演者の皆様へ
- 演題募集
- 発表演題・発表日時一覧
- 参加登録
- 自由集会のご案内



世界各国35カ国 参加人数3500人

主催 公益社団法人 日本看護協会
公益社団法人 日本助産師会
一般社団法人 日本助産学会

協賛 ジョンソン株式会社 コンシューマーカンパニー 東洋羽毛工業株式会社

後援 厚生労働省 文部科学省 外務省 JICA（ジャイカ） 日本政府観光局
神奈川県 横浜市 日本医師会 他20社ほど

<20日>

子育てと家族を支える原点をみつめる～難病の子供と家族への支援を通して
市民公開講座 大住 力（公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を）

これからの日本で子どもを産むと行くこと
河合蘭（出産ジャーナリスト）

自由集会

母乳育児支援

女性に寄り添う助産教育を考える

もはや産科では子どもは生まれない？

アジア アフリカの母子保険の改善を考えよう

助産診断名の臨床への応用
ペリネイタル ロスのケアー

ポスターセッションは毎日あります

< 21日 > フラッグセレモニー 開会式

秋篠宮紀子様ご来賓

ワークショップ シンポジウム 共催セミナー ランチョンセミナー

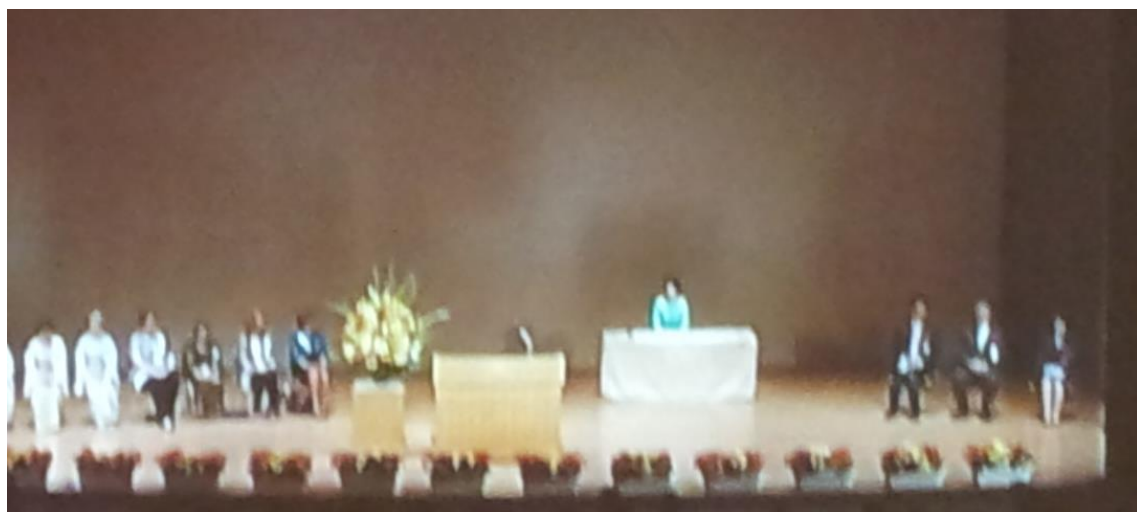
< 22日 >

何か所かにわかれて 一般演題

会場です



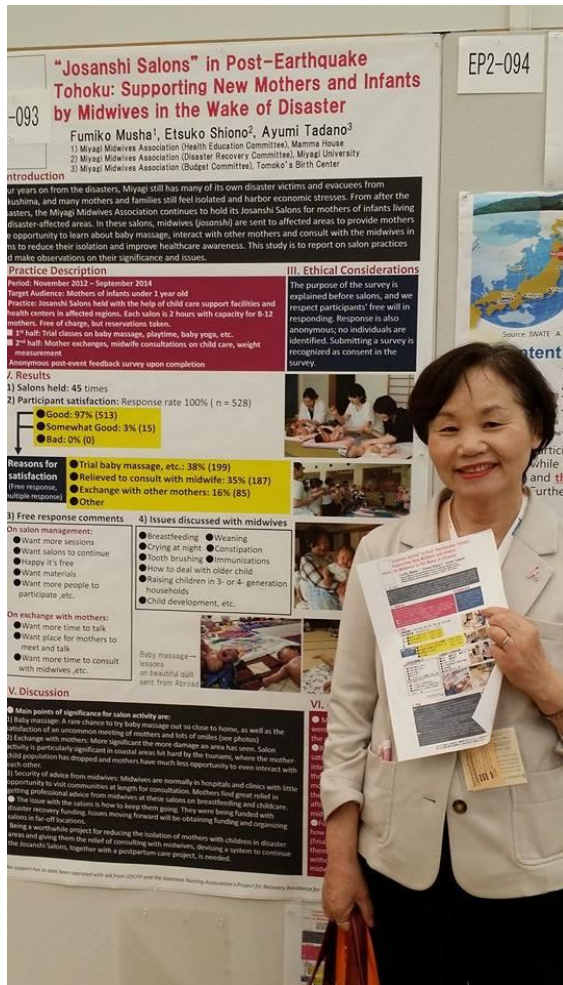
パシフィコ横浜 ICM会場入口



開会式セレモニーです

秋篠宮紀子様中央右 ブルーの服の人 がご来賓でこられました

助産師会会長 看護協会会長 厚生省からなどそうそうたるメンバーです



ポスターセッションが沢山ありました

これは仙台で行われているベビーマッサージが紹介されています



ジョンソンアンドジョンソンの株式会社の主催のランチョンセミナーです

ジョンソンのベビーオイルの販売をされているところです

ブースではベビーマッサージのレクチャーがされていました



会場で本屋さんがあります
わらべうたベビーマッサージの本が置かれています。



２２日のディナーパーティーです

立食バイキングです

厚生大臣様 ニュージーランドから会長様、衆院議員様 助産師会会長 看護協会
会長 性教育北村先生 などなど



「あけみあけみフレンド」と言ってくださったパットさん
フィリピンから８０人団体でお越しになりました
あけみアイラブユと、、おほほ 私には国境がないのです
英語も話せない私ですが、、



韓国の人で名刺いただきました カーキーさんだそうです





フィリピンより

22日いよいよ発表です

奥田朱美の演題

「日本の伝統文化わらべうたと英国で生まれたベビーマッサージを融合したわらべうたベビーマッサージの効果」

Effectiveness of the *Warabe-uta* Baby Massage—Synergetic effect of the Japanese Traditional Nursery Rhyme and the Baby Massage Originated from the U.K.

抄録

近年、日本ではベビーマッサージ講習会が数多く普及し、様々なベビーマッサージが取り入れられている。

私は、1997年に英国ロンドンにてベビーマッサージを学び、帰国後、自身の助産院で出産した母親たちへ、ベビーマッサージを伝えてきた。しかし、母親達は、黙々と赤ちゃんにマッサージしていることに気が付いた、そこで、もっと楽しく覚えやすいよい方法はないかと考えた。

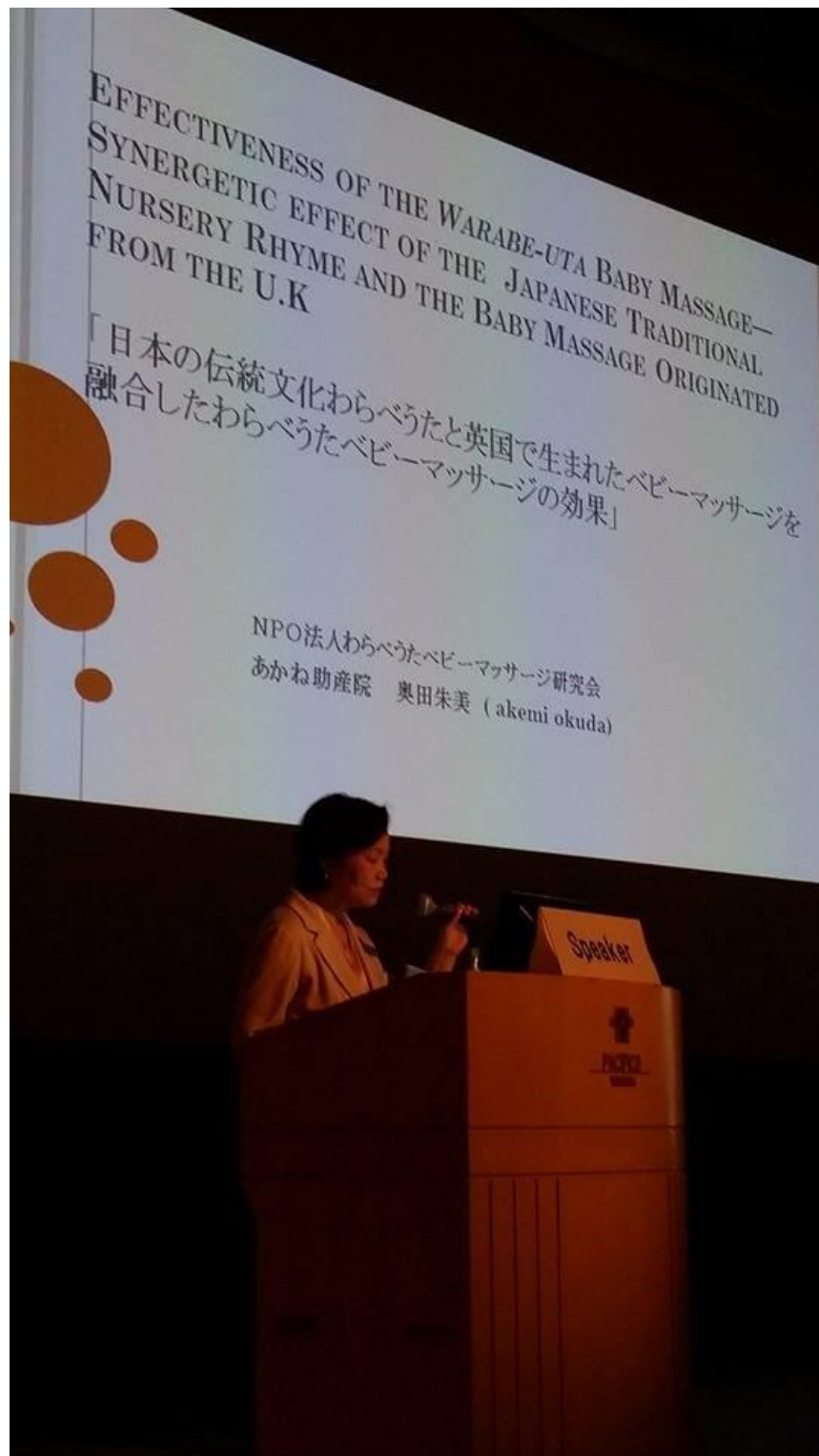
日本は、伝統的な育児方法に、「わらべうた」があり、わらべうたを歌い、語りかけ、赤ちゃんをなでたり、あやすという育児文化が存在する。現在では、核家族の増加、育児サポート欠如など、育児環境も変化している。さらに、伝統的な育児文化が伝承される機会も少なくなってきている。

そこで、ベビーマッサージと日本独自の伝統的文化であるわらべうたを、一緒に行うことを考えた。

初めは、昔からあるわらべうたにのせて、ベビーマッサージを行うものを作成したが、昔

の歌詞には、現代では意味がよくわからないものや、時代に合わないものも多くあったため、音域や繰り返しのフレーズなど、わらべうたの良いところを残し、修正を繰り返し、完成したものが「わらべうたベビーマッサージ」である。

今回は、受講者のアンケート結果から明らかになったことと、日本の伝統的文化であるわらべうたと英国で生まれたベビーマッサージを融合させた「わらべうたベビーマッサージ」の効果を紹介したい。





会場です



大内さんの発表です

乳幼児におけるスキンシップの 移り変わり研究

Of physical contact in infants Transition research

大内利絵

「ベビーマッサージ」は五感を刺激し、脳や皮膚、神経細胞の発育を促す、全身を母親の手でタッチしていくことにより、腸の運動や血液、リンパ液の流れを促進し免疫力を高める、子供も情緒安定し、よって親子の絆が深まる、とされている。しかし、実際教室では、母親は声を出すのを恥ずかしがり、結局無言のまま行うことが多くみうけられた。あやし方がわからない母親は「喋らない時期の子になんて言ってよいのかわからない」と言う。五感の一つである聴覚はあまり重要視されていなかった。そのような感じであったので、子供は1歳を過ぎて歩行し始めるようになると、じっとしてベビーマッサージ行為を受けてくれることも少なくなり、自宅でもしなくなる。ベビーマッサージ教室にも参加しなくなる。代わって子供たちが自由に遊べる児童館などを利用することが多くなる。ベビーマッサージで得たコミュニケーションはなくなってしまうのである。

ある時、教室を開いていて、0歳児親子、1歳児親子の大きな違いに着目した。0歳児は母親がずっと抱っこしたり、傍に寝かせていたりしている。1歳児過ぎの歩行を始めた子供たちは母親から離れておもちゃに向かったり、おもちゃで遊ぶことに熱中しりしている。たった1時間のなかでこの違いはなんだろう。ではこの接触時間の差が年齢別にどのようになっているのか、親子のスキンシップはどのようにして少なくなってくるのか、それによって何が必要であるのか、大人、親の役割と今後の展望を考察する。





終わった後大内さんと私です